

平成31年度(2019年度)学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	94	学校名	茨城県立岩井高等学校					課程	全日制		学校長名	國府田 一之				
教頭名	綿引 英治			酒井 貴美							事務(室)長名	松並 善市				
教職員数	教諭	33	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	3	実習教諭・実習講師・実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	2	計	49
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	55	52	57	70	65	66			177	188	12				

2 目指す学校像

- (1) 変化の激しい社会をたくましく生きていくための「生きる力」を育み、心身共に健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校
- (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や適性に応じた進路実現ができる学校
- (3) 地域の教育的ニーズに応え、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	与えられた課題等には真面目に取り組むが、基礎学力の定着やさらに進んで学習しようとする積極的姿勢が不足している。	生徒の主体的活動を促すために授業の改善を更に進める必要がある。そのために研修や情報交換を密にした活動の活発化を図る。
進路指導	大学・短大・専門学校・就職等、生徒の進路希望は多様化している。望ましい職業観を育成するため、個に応じた積極的な進路意識の高揚とキャリア教育の充実が必要である。	個人面談やガイダンスを通じ、進路選択に対する意識付けを早期に行う。大学進学に向けた課外や模試を積極的に推進する。体験的活動を通じ理解する工夫を行う。
生徒指導	明るく素直で、あいさつや服装・頭髪等もきちんとした生徒が多い。しかし周囲に流されやすい面も見られ自律的な行動がとれることが必要である。	自律的行動が身に付くよう、教職員が共通理解のもと粘り強く、丁寧に指導を行う。
特別活動	学校行事を通じて帰属意識や自己肯定感の育成を図っている。生徒数の減少に伴い部活動加入者も減ってきているため、部活動の活性化が必要である。	多くの生徒による部活動の定着化を図り、生徒自らが意欲的に活動できる環境の整備を図る。

4 中期的目標

1	学習指導の工夫・改善により学習意欲を喚起し生徒の主体的活動を促すとともに、思考力、判断力、表現力等を育む言語活動の充実を図る。
2	生徒一人一人に応じた望ましい職業観や勤労観を育成するため、計画的・組織的なガイダンスや体験的活動、課外指導および個別指導の実践、地域の教育力の積極的な活用等により、キャリア教育の充実を図る。
3	規範意識・自己管理能力を高めて規律ある充実した学校生活を保障し、家庭や地域の一員として貢献しようとする豊かな人間性・社会性を育てる。
4	生徒が主体的・意欲的に参加できる学校行事や活力ある部活動を展開することによって、よりよい人間関係と自治能力の育成を図る。
5	様々な分野において、小中学校及び地元との連携を図り、地域社会から信頼される魅力ある学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
ア 学力の向上を目指す諸指導の実践	① 主体的学習態度を養い、思考力、判断力、表現力を高める授業の改善を図る。 ② ICT活用、小テスト等の導入により学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 ③ アクティブ・ラーニングの導入を試み、言語活動の充実を図る。 ④ 各種検定試験の合格者やセンター試験利用による合格者を増加させる。 ⑤ 学習課題を工夫する等の手法をとることによって、自宅学習時間を確保・増加させる。 ⑥ 観点別学習状況の評価の浸透を図る。 ⑦ 小中学校との相互授業参観等の取り組みを通して、学習指導の工夫・改善を図る。
イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実	⑧ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化させるため個別面談の充実を図る。 ⑨ キャリアカウンセリングや地域と連携したインターンシップ等の体験的活動により生徒の進路意識を高める。 ⑩ 基礎力の定着や学習能力の向上を進める課外体制の充実を図る。 ⑪ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。 ⑫ 生徒・保護者への情報提供だけでなく、参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。
ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開	⑬ 学校生活を通し自らを律するとともに、他者との協調性を培う。 ⑭ 組織に所属する自己肯定感を高め、校歌を歌うことにより母校愛を育成する。 ⑮ 各種講演会や面談を通し生徒の自己理解・自己指導能力を育成し、事故等の未然防止に努める。 ⑯ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。
エ 特別活動・広報活動の活性化	⑰ 生徒が主体的・積極的に参加できる学校行事を企画・実践する。 ⑱ 各部活動の加入率を高める。 ⑲ ホームページや学校通信等により、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。 ⑳ 地域の小・中学校と連携協力した取組を通して信頼関係を再構築し、志願者増につなげる。